

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2023 No.568

4/1

JART情報
https://www.jart.jp

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



2022年度 第6回理事会 開催される (Web併催)

2023年2月25日(土)午後2時より、2022年度第6回理事会が日本診療放射線技師会事務所においてWeb会議システムを併用して開催されました。冒頭に上田会長のあいさつがあり、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に変わることに伴い、感染対応を総合的に判断し、アフターコロナに向けて対応していくことが述べられました。

主な議題は、「令和5(2023)年度事業計画・予算計画」「各種規程運用改正」「学術研究に関する倫理規程」「業務執行理事の選任」「第41回日本診療放射線技師学術大会の立候補」「第86回定時総会開催」などでした。

上田会長からは、2023年度の主な事業計画の総括について、「事業および事務局業務においてDXを推進する」「診療放射線技師の需給についての調査を実施する」「国際事業を通じてISRRTの活動を支援する」などの説明がありました。また3つの2023年度のスローガンも発表されました。加えて、園田総務理事から具体的な事業計画の説明がありました。江端理事からは令和5(2023)年度収支予算ならびに正味財産増減計算予算書に基づき、前年度から追加された事業項目の予算説明がありました。審議の結果、いずれも賛成多数で承認されました。

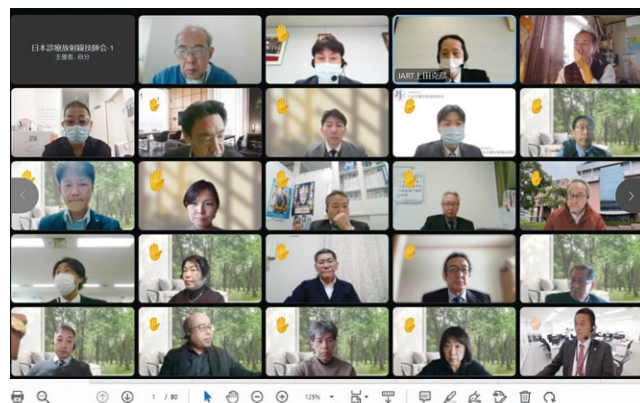
江藤副会長からは、定款改正に伴う規程改正について、①財務及び会計取扱規程 ②職務権限規程 ③理事会運営規程 ④委員会設置および運営に関する規程 ⑤謝金等に関する規程——などの説明がありました。また「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に伴う「学術研究に関する倫理規程」の制定、「学術研究に関する倫理ガイドライン」の廃止について説明がありました。審議の結果、いずれも賛成多数で承認されました。

現在、欠員となっている常勤役員の業務執行理事の選任について、上田会長から起案書の説明があり、江端清和理事の業務執行理事就任が賛成多数で承認されました。

第41回日本診療放射線技師学術大会の開催地立候補について、公益社団法人福井県診療放射線技師会から立候補の要望書が提出され、福井市周辺で2025(令和7)年9月12日(金)～14日(日)に開催する旨の説明がありました。また第86回定時総会開催について、2023年6月10日(土)にWebで開催すること、加えて総会次第の説明がありました。審議の結果、いずれも賛成多数で承認されました。

報告事項としては、地域理事、各委員会などから37項目の報告がなされ、資料と共に共有されました。最後に、園田理事により今後のスケジュールが確認され本理事会は終了しました。

詳細は、本会会誌に掲載される2022年度第6回理事会議事録(抄)をご参照ください。



令和5年度 事業計画【案】 令和5年2月10日(第2版)

I. 総括

ウクライナ紛争を始めとする不安定な世界情勢は、エネルギー問題や半導体不足など放射線医療においても大きく影響しており装置導入の遅れも報告されており、今後も様々な状況を配慮した病院運営が必要となっており、診療放射線技師も将来を見据えた対応が求められている。

令和5年度事業については、令和4年度事業を継続し、より発展させていく中で新たな事業も展

望の大会を目指して公益社団法人熊本県放射線技師会と協力し開催する。第40回JCRTを日本放射線技術学会と合同開催とし、第1回日本放射線医療技術学術大会として2024年開催に向けて準備する。関連団体との協働強化を継続し、本会事業を理解頂くとともに本会に求められる事業については積極的に対応する。

本会の事業運営全般について各都道府県(診療)放射線技師会との連携を強化し、会員へのサービスの充実、研修等の協力体制について情報共

上田会長、羽生田厚生労働副大臣と面会する

2023年2月8日(水)、参議院議員会館で本会上田会長と羽生田俊厚生労働副大臣がご面会されました。告示研修の修了者が1万人に達すること、またタスク・シフト/シェアに関しては、放射線科医の講師派遣について関係学会を通してご協力いただいていることなど幅広い意見交換の後、本会会員でもある睦生将吾厚生労働大臣政務官が、診療放射線技師に関する範囲のみならず、医療界全体を広く見渡した活動をされており、国民医療・福祉の向上に努めていただいていることも申し添えて、日本診療放射線技師会の活動にご理解とご支援を頂きたいとの陳情をさせていただきました。

羽生田副大臣からは医師のタスク・シフト/シェアへの協力に感謝のお言葉を頂き、今後の日本診療放射線技師会の告示研修実施への期待を述べていただきました。

その後、上田会長は日本医師会館を訪問し、診療放射線技師と医師との連携について、松本吉郎会長と意見交換しました。



令和4年度 近畿地域診療放射線技師会 学術大会 開催報告 (ハイブリッド開催)

公益社団法人滋賀県診療放射線技師会 会長 武田 宣明
(令和4年度 近畿地域診療放射線技師会学術大会 大会長)

2023年2月12日(日)、令和4年度近畿地域診療放射線技師会学術大会を、開催テーマを『次世代へ向けて、継続と進歩～Continuation and evolution for the next generation～』とし、本大会初のハイブリッド形式で開催しました。現地参加209人、オンデマンドを含むWeb参加87人の合計296人と、多くの方に参加していただきました。

午前中は、「告示研修後の診療放射線技師のあり方、今後の展望」と題して、公益社団法人日本診療放射線技師会上田克彦会長に告示研修やSTAT画像報告など、JARTが取り組んでいる事業を中心に説明いただき、今後、診療放射線技師が進めていかなければならないことをご講演いただきました。またJARTシンポジウムを「告示研修に関して」開催後の変化や導入に対する事例や今後の展望」というテーマで開催しました。続いて児玉直樹副会長に「診療放射線技師の業務範囲拡大による告示研修の現状と今後」をご講演いただいた後、近畿2府4県代表者により告示研修やタスク・シフト/シェアの現状や問題点などを発表いただき、参加者と共にディスカッションを行いました。すでにタスク・シフト/シェアを行っている施設には、自施設が抱える問題点の解決策のヒントが見いだせたのではないのでしょうか。また、まだ行っていない施設においては、その必要性和始めるに当たってやらねばなら



ないことなどが明確になり、非常に良いシンポジウムとなりました。その他にもさまざまなコンテンツが企画された大会であり、同時刻で聞き逃したプログラムやもう一度聞きたい講演、当日は実行委員として激務に追われたスタッフたちがオンデマンド配信で見られるのも、ハイブリッド開催の魅力と思っています。

国際交流では、ソウル市放射線士のPark会長とLee副会長にも大会にご列席いただくとともに、ビデオ発表ではありますがソウル市放射線士の会員より演題発表を頂きました。今後、ますます国際交流活動もコロナ前に戻り、beyondコロナの時代が訪れることを祈っています。

最後になりましたが、ご後援いただいた各団体やご協力いただいた賛助会員、およびご参加いただいた皆さまに感謝致しますとともに、今後とも本会の運営にご理解とご協力をお願いします。

2022年度 放射線治療分科会 生涯教育セミナー（基礎編）開催報告（Web開催）

放射線治療分科会 安井 啓祐（藤田医科大学）

2023年1月22日（日）、本セミナーは、依然として続く新型コロナウイルス感染症への対応に加え、オンライン開催を望む声が多くある中、Webexを用いたWebセミナーとして開催しました。

Webセミナーを開催するに当たり、いくつかの工夫を試みました。最も重視したのはリアルタイム性であり、Web開催ながら質疑応答の時間を45分間と長めに設定しました。講演資料は事前にファイル共有で配布し、質疑は事前アンケートで収集、講師陣で共有ファイルに回答案を作成して臨みました。また当日は質問をGoogleフォームで受け付け、結果として全ての方には答えられないほど多くの質問が寄せられました。これらの質問は後日、文書でフィードバックを予定しており、余すことなく質問を受け付けられた点は良かったのではないかと感じています。

当日のセミナーでは、「がん放射線治療における不確かさ」「ビームデータ取得に必要とされる知識」「高エネルギーX線の吸収線量評価」「モニタ単位数計算の基礎」の4講演が行われました。受講時間の不足などで未受講扱いとなる参加者が発生した点はWebセミナーの難しさを感じましたが、84人の参加者からは事後アンケートでおおむね高い評価を頂きました。今後は頂いた意見を基に、Webセミナーを軸としてさらに発展した内容を検討できればと考えています。

最後に、本セミナーを受講いただいた皆さまをはじめ、座長を務めていただいた埼玉医科大学総合医療センター 畑中先生、講師を務めていただいた群馬県立県民健康科学大学 津野先生、京都第一赤十字病院 田中先生、兵庫医科大学病院 若山先生、開催に当たりご助言・ご協力を頂いた放射線治療分科会委員の先生方、事務手続きなどをお手伝いいただいた日本診療放射線技師会の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。

2022年度 放射線機器管理地域研修会 （福島県）開催報告

放射線機器管理士分科会

2023年2月11日（土・祝）、郡山商工会議所で放射線機器管理地域研修会（福島県）を開催し、23人の方に受講していただきました。

今回の講習会では、「医療機器における諸法令について」として、関係法令や機器管理の重要性ならびに認定更新における書類等の注意点などを解説し、一般撮影・CT・造影剤自動注入装置・核医学に関連する機器管理の方法と実践、そして課題についての講義が行われました。講義後の全体での意見交換会では質問や意見が多く出され、活発な議論がなされました。参加者の皆さまの意識の高さがうかがえた研修会でした。

昨今、多くの医療機器に関わる医療事故が発生していますが、その際には必ず保守点検や日常点検の実施状況、および安全使用のための研修会が実施されていたかが問題となっています。本研修会が放射線関連機器の安全管理を実践し、安全・安心な医療の提供につなげていくための動機付けの一助になればと願っています。



2023年度も参加者の皆さまとの活発な意見交換・議論を行う場として、また実習を取り入れるなど会場型の良さを十分に生かした講習会を模索し、講演を行うモダリティについては、開催県のご意見を取り入れプログラムを作成していく予定です。詳細は、JART会誌・ホームページで広報を行う予定ですので、多くの皆さまのご参加をお願い申し上げます。

診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース (会場型)「消化管撮影」開催報告

公益社団法人神奈川県放射線技師会 副会長
引地 利昭 (JART教育委員)

2023年2月12日(日)、横浜市立大学 金沢八景キャンパスで診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース(会場型)「消化管撮影」が開催されました。消化管撮影検査は昨今件数が減少傾向であり、現場での教育に苦慮していることを懸念し、体系的な学びの場を提供する目的で企画し、神奈川県内では初めての開催となりました。

講義内容は、透視装置の基礎、画質や性能評価、検査に必要な解剖、造影剤や使用薬剤の基礎、上部・下部消化管における基本的な撮影のポイントや読影レポート、被ばくの知識および受診者への対応まで満遍なく講義いただき、消化管撮影の検査を実施するに当たり、必要な基礎知識を学ぶ良い学習機会となりました。また一部講師は、Webでの講演ではありましたが、対面開催のメリットである受講者同士の交流や、



講師への対面での質問などが可能となり、満足度の高い講習会になったのではないかと感じました。今回の講習会は、新型コロナウイルス感染症が終息しない中、会場開催型講習への参加が躊躇される状況でもあり少人数での開催となりましたが、今後はWeb開催と会場開催それぞれのメリットを生かした方法で開催することにより、多くの方が参加できる“学ぶ環境”を提供し、引き続き「基礎技術講習」が“技術および知識向上”の場となることを切に願います。

2022年度 マネジメント研修会 (ミドル・シニアクラス) 開催報告

人材育成委員会 委員長 中村 泰彦

2023年2月19日(日)、国立がん研究センター研究棟でマネジメント研修会(ミドル・シニアクラス)を開催し、26人の参加予定のところ、25人の方に受講していただきました。

この研修会は、全てグループワークを中心にした研修会で、昨年9月にはミドルクラス(マネジメントリーダーLV3)の研修会を開催しました。今回はミドル・シニアクラス(マネジメントリーダーLV4)で、内容は、午前に医療情勢、中期・年度事業計画、バランス・スコアカード(BSC)について、職場長の役割などをご講義いただき、実際にBSCについてグループワークを行い、代表者に発表していただきました。午後からはキャリアプラン、目標評価と人事考課について講義、グループワークを行いました。参加者も最初は初対面で緊張もありましたが、グループ



ワークが進むにつれて活発な意見交換が行われ、グループ内にチームワークも生まれたようでした。

終了後の参加者からは、ここで学んだことを職場に持ち帰り実践したいとの前向きな意見を頂き、改めて講義中心ではなく、グループワークの大切さを実感しました。次年度も皆さまのご意見を取り入れ計画していきたいと思っております。対象クラスを明示していますが、若い人も役職に関係なく参加をお願いします。



2022年度 第1回画像等手術支援分科会 ハンズオンスキルアップセミナー 開催報告

画像等手術支援分科会 分科会長 平野 透

2023年2月26日(日)、三田国際ビル地下会議室を会場として、画像等手術支援分科会単独で対面形式のハンズオンスキルアップセミナーを開催しました。

画像等手術支援分科会では、毎年、秋に開催される日本診療放射線技師学術大会期間中にセミナーを開催しておりますが、そちらは3Dワークステーション(3DWS)を用いた3D画像作成の経験が少ない方や、今後、3D画像を積極的に作成したいと考えている初級者から中級者が対象でした。今回のセミナーは、それぞれの地域またはご自身の施設での、3次元画像作成におけるリーダーとしてのスキルを高めたい方を対象とし、3D画像作成レベルが中級から上級者向けとして開催致しました。学術大会では、プログラムの関係上90分のセミナーを2コマでの開催でしたが、本セミナーでは午前2時間、午後4時間を使用しており、3D画像作成に関するさまざまなTipsや、さらにより深く踏み込んだ手術支援画像作成ができるような時間が設けられたプログラム構成にしました。

第1回となる今回のセミナーのプログラムですが、午前中は、済生会熊本病院の奥村氏から3DWSにあるさまざまな便利な機能の使用方法や微細血管描出の手法、福山市民病院の三村氏からは造影不良症例に対する画像再構成方法などの



セミナー終了後、分科会メンバーと受講者の皆さんで集合写真
受講者の皆さん、感染対策も含めて一日大変お疲れさまでした!

工夫、奥州市総合水沢病院の高橋氏からはCTとMRI画像を使用した腰椎椎間板ヘルニア症例の手術支援画像作成について、解説と実機を用いた講習が行われました。午後からは実機のみを用い、筆者が脳動脈瘤の開頭手術用のシミュレーション、札幌医科大学附属病院の田中氏から大腸癌の手術用のシミュレーション画像作成について講習が行われました。

今回のセミナーでは、分科会メンバーも知らない新しいテクニックや処理の工夫なども紹介され、多くの受講者が今後の画像作成の参考にしていただけたのではないかと考えております。またセミナー終了後も講師に質問をされている場面があり、開催側としてセミナーを開催してよかったと安堵しております。



セミナー前日の機器搬入風景

アミン株式会社の皆さんと分科会メンバー全員で設営の準備をしました。



ハンズオンセミナー当日の風景

受講者の皆さん、真摯に受講されていました。

JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種資料・手続き→各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

2022年度 災害支援認定診療放射線技師 講習会 開催報告

災害支援認定診療放射線技師分科会 分科会長 中田 正明（兵庫県災害医療センター／神戸赤十字病院）

2023年2月26日（日）、兵庫県災害医療センターで3年ぶりとなる災害支援認定診療放射線技師講習会が開催されました。

本会は、原子力等放射線災害および自然災害において、被災地での医療救援活動の役割を担う診療放射線技師を災害支援診療放射線技師としてその活動を推進し、特に、災害支援診療放射線技師のリーダーとしての役割を担う診療放射線技師を「災害支援認定診療放射線技師」（以下、災害支援認定技師）として認定しています。認定申請のためには、本講習会の受講および確認試験に合格することが要件となります。

講習会は30人の定員制で、座学と放射線サーベイ、下肢静脈超音波検査の実技、災害対応シミュレーション（支援・受援）で構成されています。

放射線サーベイは、各自タイベックススーツやブーツカバー・手袋・マスクなどを実際に身につけていただき、その装備を装着したままサーベイを行う実践的な実技となっています（写真1）。

下肢静脈超音波検査実技では、避難住民の下肢静脈血栓症の好発部位である膝窩静脈・腓腹静脈・ヒラメ静脈を中心に超音波解剖と走査実技を行います。今回、受講された会員はほとんどが超音波検査未経験者でしたが、基本的な下肢静脈の超音波解剖と走査手技を理解していただけたのではないかと思います（写真2）。



写真3

災害対応シミュレーションにおいては、認定を受けた後に、実際に災害現場を支援する場合を想定して、どのような準備が必要で、被災地ではどのような活動をし、留意するべき点は何かについてディスカッションしました。また逆に、被災地となった場合の対応についてもシミュレーションを行いました。これは主にBCP（業務継続計画）を中心に、自分たちの施設や放射線部門に必要な準備と、実際に被災した後の対応についてディスカッションしました（写真3）。

今後の災害支援認定技師認定制度の発展のためには、行政や医師会、関連団体への広報活動、機器メーカーとの協力態勢、本会と地区技師会の連携など、災害支援認定技師がスムーズに活動できるように解決しなければならない課題があります。災害大国といわれる日本では、大規模災害がいつ発生してもおかしくない状況であるため、できるだけ早く課題を解決したいと考えています。今後とも、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本講習会開催に当たり、講師を務めていただきました会員の皆さま、超音波装置を提供いただきましたGEヘルスケア・ジャパン株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社、長瀬ランダウア株式会社の皆さま、日本診療放射線技師会事務局スタッフの皆さまに感謝申し上げます。



写真1



写真2

告示研修 開催報告

徳島県

一般社団法人徳島県診療放射線技師会 会長 藤原 良介

2023年2月5日(日)、徳島大学医学部 大塚講堂において告示研修(実技)を開催しました。

開催日当日は、受講者も事故なく円滑に参集ができ、時間通りに午前の動画視聴に入ることができました。

当県での同研修の開催は3回目になり、スタッフの役割分担も円滑に運ぶことができ、回を重ねることにおおむねスムーズな会場設営が可能となっています。今後も同研修を開催するに当たり、熟練度が上がることを期待するところです。

開催に当たっては、本県においても新型コロナウイルス感染症の状況は減少傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症や警報の状況にあるインフルエンザの予防を図るため、国が示す新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインや、JARTの示す会場型講習会等開催ガイドラインを順守しての開催に、十分に留意して運営に臨みました。受講者におかれ

ましても、スタッフの指示を受けることなく自ら感染予防に取り組まれていることを目の当たりにし、感染予防技術が浸透していることが感じられました。

午後からの実技研修では、受講者は積極的に医師・看護師の講師の方々や、ファシリテーターに質問するなど活発な研修会となり、意識の高さを感じることができました。

また医師講師からは、生体における静脈路確保などの手技における留意点や、看護師講師からは生体における血管の探し方などの実践的なご指導を頂き、今回の業務拡大に対する、他の医療職種からの理解や期待を確信することができました。

最後に、今回の告示研修を開催するに当たり、献身的に準備を進めていただいたスタッフに感謝申し上げますとともに、受講いただいた方々の今後のご活躍をお祈り申し上げます。



香川県

一般社団法人香川県診療放射線技師会 理事 村山 俊二

2023年2月11日(土・祝)、香川大学医学部 臨床講義棟1階他において令和4年度第5回告示研修(実技)を開催致しました。当日は27人の参加があり、回を重ねるごとに参加人数が少なくなっているのが少し気掛かりでしたが、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら無事開催することができました。今回が本県において5回目の開催ということで、会場の準備から運営・片付けまでスムーズに行うことができました。また実習の際に、受講者がイメージしやすいように臨床現場の写真を持参したり、指導マニュアルを使いやすいよう

に工夫したりとファシリテーターの意欲も高く、より良い研修会になっていると実感しています。

令和5年度も引き続き告示研修の開催を予定しています。新型コロナウイルスの影響で対面での研修会が少なくなりましたが、今回の告示研修のように、違う施設の幅広い年齢層の受講者が、同じグループで声を掛け合いながら行う実習を見ていると、対面の良さを実感します。実習でしか得られない学びも多くありますので、受講されていない方はぜひご参加ください。

レントゲン週間 イベント開催される



本会では、1895年11月8日のW. C. レントゲン博士によるX線発見を記念し、毎年11月2日～11月8日の一週間を『レントゲン週間』と制定しています。
この『レントゲン週間』にちなみ、放射線の専門家として正しい知識を国民に伝えるとともに、私たちの仕事を知っていただくためのイベントとして、本年度も各県（診療）放射線技師会の協力を得て、各地でさまざまなイベントが開催されました。

IWATE (Web開催)

岩手県診療放射線技師会では、2022年11月14日（月）から12月19日（月）まで「がん放射線治療のいま」というテーマで公開講演会を開催しました。岩手県民の健康増進と放射線診療の正しい知識の普及を目的として、例年、会場型で開催してきましたが、2020年からはコロナ禍のあおりを受け、事前収録した講演ビデオを本会ホームページ上でWeb配信しています。

講演は、岩手医科大学放射線腫瘍学教授の有賀久哲先生によるお話で、日々進歩する放射線治療について分かりやすく解説していただき、より安心して放射線治療を受けていただくための一助となる内容でした。簡単にご紹介致します。

「がんの予防には何といっても、喫煙や飲酒などの遺伝子が傷つく行為をなるべく避け、適度な運動や十分な睡眠など、免疫を活性化するような生活の心掛けが大事です。またがんの早期発見には定期的な検診受診も有効です。期せずしてがんになってしまった場合は、初期治療選択が治療成績に最も影響します。現状は、最も治る確率が高い標準治療が検討され、放射線治療もがん治療の一つの選択肢となっています。近年では治療技術の進歩により、正常組織を保護しつつ、がん放射線照射する方法が普及し、より安全に、より短期間に治療が受けられるようになっています。がん治療選択の意思決定のポイントとして、自分の気持ちをしっかり見つめて医療者に自分の考えを発信し、一緒に治療法を決めていくことが重要です」とまとめられました。



有賀久哲先生

講演を通じ、ご視聴いただいた皆さまの「放射線治療」に関する知識習得のご参考になればと思っております。本会では幅広く視聴いただくために、県内の病院施設、放射線治療関連施設、がん患者会やサロンに案内状やポスターを配布致しました。またメールなどを利用して、東北地域診療放射線技師会や北奥羽放射線治療懇話会の参加施設などへの周知を行い、ご協力をお願い致しました。最終的には、一般の皆さまにはなじみの少ないテーマではありましたが、視聴数は192回と例年を幾分上回り、無事に終了致しました。

この場をお借りして、有賀先生をはじめ開催に当たりご尽力いただいた方々、および公開講演会の周知・案内にご協力いただいた方々へ深謝致します。
(一般社団法人岩手県診療放射線技師会 担当理事 村中 健太・藤原 純一)

岩手県診療放射線技師会公開講演会

がん放射線治療のいま

「安心して放射線治療を受けていただくために」

岩手医科大学 放射線腫瘍学 有賀 久哲

最初の治療がとても大事

- 「手術後に再発しても放射線治療が可能だけど、逆は無理」手術を選ばない？
・可能か不可能かと聞かれれば可能だが、最善の効果は期待できない。
- がん薬物耐性の論文「重要なことは、私たちの臨床研究の検討から、薬物を投与していないがん細胞集団に対して**最初に治療**を行うことが、**治癒の最良の機会**であることが明らかになったことです」
(Marine J-C. Non-genetic mechanisms of therapeutic resistance in cancer. Nat Rev Cancer. 2020)

本日の話の要点

- がんは老化の側面もあり、予防できるけど完全には防げません。自分の生活方針を考えてみましょう。
- 放射線治療技術は急速に進歩**を続けており、がん細胞を根絶する治療が、適応拡大され、より安全に、より短期間に受けられるようになっていきます。
- がん治療の選択には、自分の気持ちをしっかりみつめ、医療者と一緒に治療法を決めていくことが重要です。他の診療科、他の施設の意見を聞くこともよい方法です。

第6回 第39回日本診療放射線技師学術大会 (39th JCRT)
第30回東アジア学術交流大会 (30th EACRT)

熊本への道 Go To KUMAMOTO

実行委員 米須 大樹

(一般社団法人熊本県放射線技師会 会員)

熊本県北東部 阿蘇の名湯 黒川温泉

前回の熊本への道 Go To KUMAMOTO では熊本の観光名所 天草の紹介がありましたが、今回も引き続き熊本観光について紹介していきたいと思えます。

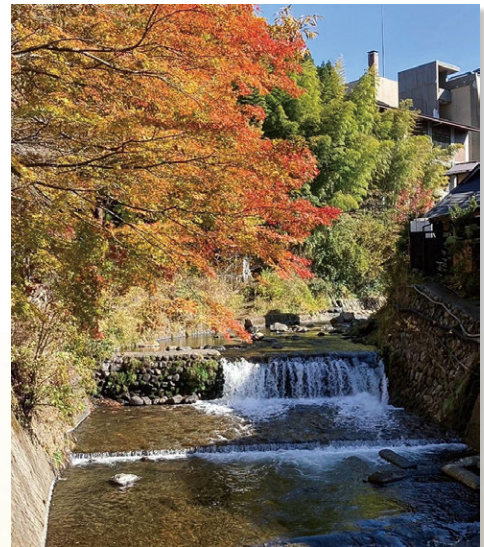
九州には有名な温泉街が多くありますが、その中でも熊本県阿蘇郡に位置する「黒川温泉街」は、絶大な人気を誇っています。

黒川温泉は、遠い昔、病気の父のために瓜を盗もうとした男の身代わりとなったお地蔵さまを安置した際、その地から温泉が湧き出るようになったことが発祥とされています。今現在では黒川温泉街として数多くの旅館が立ち並び、大勢の人々が行き交う観光名所となっています。立ち湯や洞窟風呂など、さまざまなタイプの温泉がありますが、入浴手形を購入すれば、複数の温泉にもお得に入浴できます。

黒川温泉街は、熊本市内から2時間ほど車を走らせた山中にあるため、四季折々の風景に囲まれています。温泉以外にも、食事処やさまざまな種類のお土産店が立ち並び、和やかな雰囲気の中、食べ歩きができることも魅力の一つです。冬の時期になると、数百個の竹灯籠^{とうろう}によって黒川が彩られ、幻想的な空間に包まれる「湯あかり」が楽しめます。

また温泉街周辺にはウォーキングコースがあり、あまたの写真スポットがありますので、運動をしながら多くの写真を撮影して思い出として持ち帰ることもできます。熊本に来た際には、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

今回は熊本県の温泉街である「黒川温泉」を紹介させていただきました。私の出身地、沖縄には温泉が少ないので、絶景に囲まれながら温泉で疲れを癒やせる体験は非常に感動的でした。今大会では、ぜひとも日頃の成果を発表していただき、有意義な学びの場を過ごした後は、温泉で日々の疲れを癒やしてみるのもよいのではないのでしょうか。学会開催まで約半年ですが、実行委員一同、力を合わせ、皆さまに充実した学びの場を提供できるよう努めてまいりますので、ぜひとも多くのご発表、ご参加を心よりお待ちしております。



紅葉に彩られた黒川温泉 (11月撮影)



冬に見られる「湯あかり」

ウクライナ侵攻から1年が経過して



ロシアがウクライナに侵攻して1年がたったというニュースを聞き、改めてこの侵攻の原因について調べてみました。ロシアはゼレンスキー政権が親欧米で、NATOへの加盟を目指していることに対して我慢ができず、いろいろな理由を付けてゼレンスキー大統領を武力で排除し、ロシアに従順な国に変えたいと思い侵攻したといわれています。一方、ロシアは長年にわたりNATOの東方不拡大を訴えていましたが、米国を含むNATO側が対処してこなかったためともいわれています。理由はどうあれ、ロシアがウクライナに侵攻して、私たち診療放射線技師にどのような影響があったのでしょうか。

侵攻直後には、飛行区域の安全確保のため欧州便の欠航が相次ぎ、欧州地域からのモリブデン原料が調達できず、核医学検査が縮小されることになりました。次に、半導体生産に必要なレアガスやレアメタルなどの原材料の一部はロシアやウクライナへの依存度が高く、世界的な半導体不足となり装置導入や修

理に遅れが生じています。この冬には、化石燃料（天然ガス・石油・石炭）の輸出大国であるロシアに対し各国が輸入制限を行ったため、化石燃料の価格が高騰し、各施設でも光熱費が高騰し経営に大きな影響を及ぼしていると思います。

この侵攻が起きる前に、ロシアとウクライナだけの問題としてではなく、各国が自分のこととして両国に寄り添うことができていたら、侵攻は起きなかったかもしれません。

ウクライナ侵攻から学んだこととして、チーム医療を推進するため、診療放射線技師として、まずは多くのことに興味を持ち、自分のこととして関わっていくことが必要と思います。技術者として医療人として、積極的なコミュニケーションを心掛け、相手との考え方や視点の違うことを理解した上で、お互いを尊重する姿勢を持ちながら意見交換ができるように心掛けていきたいと思っています。

(文責：園田 優)

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナーのお知らせ



プログラムは、エチケット・マナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎（都道府県により違いあり）など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

- フレッシューズセミナー開催予定： 佐賀 4月22日(土) 群馬 4月23日(日)

4月・5月の講習会などスケジュールのご案内



[e-ラーニング (ストリーミング方式)]

- 告示研修 (基礎研修) 2021年7月31日(土)午前0時から2026年3月31日(火)午後11時59分まで ※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2022年11月21日(月)午前0時から2027年3月31日(水)午後11時59分まで ※配信を再開しました。 ※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。

日本医学会総会2023東京博覧会に出展します！



放射線医療のことを、国民の皆さまにもっと知っていただくため、日本診療放射線技師会は放射線医療関連団体と共に、2023年4月開催の「第31回日本医学会総会博覧会」に出展します。皆さまもご家族と一緒にご参加ください！

展示会 会期：2023年4月20日(木)～23日(日)

会場：東京国際フォーラム ホールE

<https://isoukai-expo.jp/>

出展団体：日本ラジオロジー協会 (JRC)、日本医学放射線学会 (JRS)、日本放射線科専門医会・医会 (JCR)、日本診療放射線技師会 (JART)、日本放射線技術学会 (JSRT)、日本磁気共鳴学会 (JSMRM)、日本IVR学会 (JSIR)

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。